

【8-A】 効範連区 社会条件

【連区の概要】

効範連区は瀬戸市の西端に位置し、尾張旭市と接している。連区内の多くは住宅地であるが、北側にまとまった樹林地が残されている。南側の連区境界には瀬戸川が流れている。主要道路は、県道 61 号が連区の南部を東西に通過している。また、連区の中央部を東西に名鉄瀬戸線が通過しており、連区内には水野駅が存在する。

効範連区



【人口および世帯数】

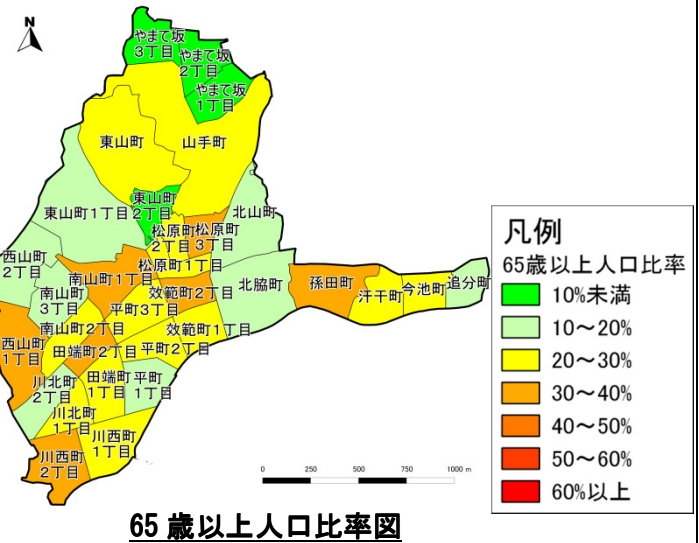
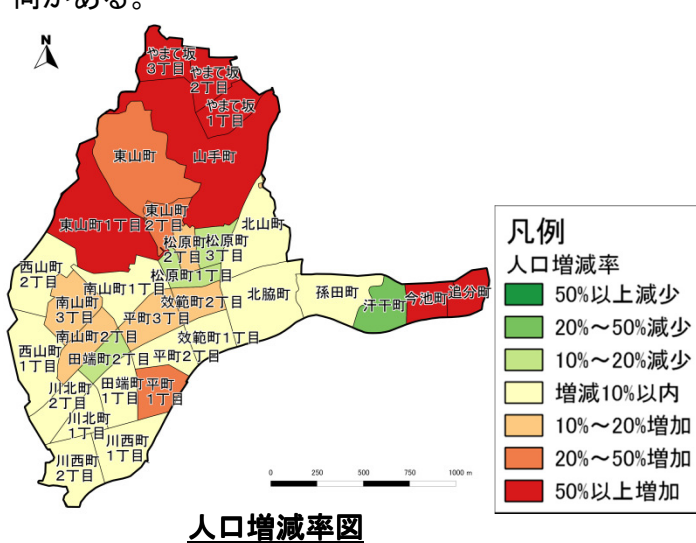
平成 12 年から平成 22 年までの 10 年間で、効範連区全体の人口は 15,629 人から 18,783 人と 20.2%増加している。連区内では、北側の西陵連区側と水南・道泉連区側の地域で増加傾向である。その中でもやまて坂 1 丁目と 2 丁目、松原町 2 丁目と 3 丁目、平町 3 丁目、追分町などの人口増加が高い地域では 65 歳以上人口が比較的低く、人口増減率が 10%以下の地域では 65 歳以上人口比率が高い傾向がある。

効範連区全体の 65 歳以上人口比率が 19.6%と、瀬戸市全体の 23.3%と比べて 3.7%低い。連区内では、やまて坂 1 丁目～3 丁目、追分町などの人口増加が高い地域では 65 歳以上人口が比較的低く、人口増減率が 10%以下の地域では 65 歳以上人口比率が高い傾向がある。

階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	3,250人	17.4%
15～64歳	11,747人	63.0%
65歳以上	3,654人	19.6%
区分不明	132人	-
連区内人口	18,783人	

※平成22年国勢調査結果より



【建物】

効範連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物 66.0%、非木造建物 34.0%である。新耐震基準以前（昭和 55 年以前）の木造建物は全建物の 28.6%であり、瀬戸市全体の 34.3%に比べて低い。南部（名鉄瀬戸線の南側）は、北部の丘陵に比べ新耐震基準以前の木造建築物の比率が高い傾向がみられる。

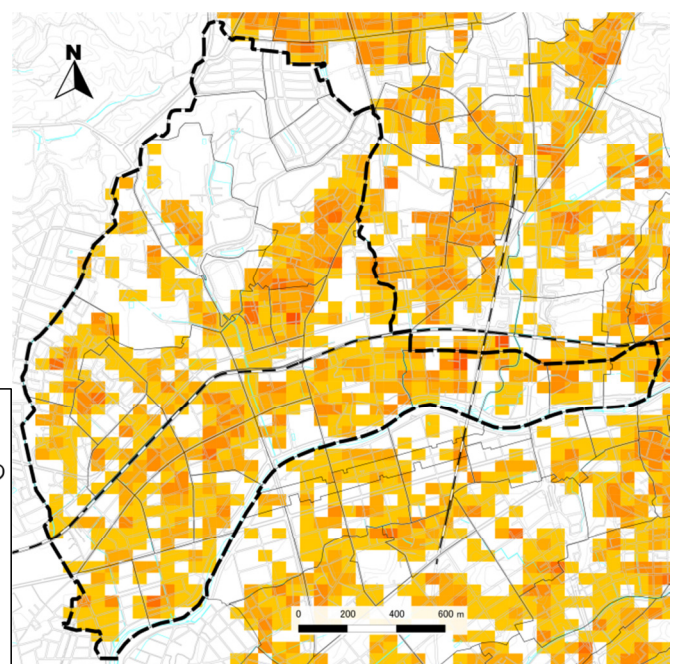
木造・非木造構成

	建築年	棟数	構成比
木造	S35年以前	610棟	10.8%
	S36～55年	1,007棟	17.8%
	S56年以降	2,118棟	37.4%
	計	3,735棟	66.0%
非木造	S45年以前	460棟	8.1%
	S46～55年	301棟	5.3%
	S56年以降	1,167棟	20.6%
	計	1,928棟	34.0%
連区内棟数		5,663棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査

建物利用現況図をもとに集計

凡例
50mメッシュ内の新耐震基準以前の木造建物棟数
1～2棟
3～4棟
5～7棟
8～10棟
11～18棟



新耐震基準以前の木造建物分布図

【8-B】 効範連区 水害および土砂災害

- 連区南東部に土砂災害警戒区域が存在する。
- 連区西部の広い範囲にて、風水害時の避難所までの距離が離れている。

【水害および土砂災害箇所】

効範連区では、浸水想定区域の設定はなく、また近年大規模な水害は発生していない。

また、西山町1丁目には、土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）に指定されている箇所がある。

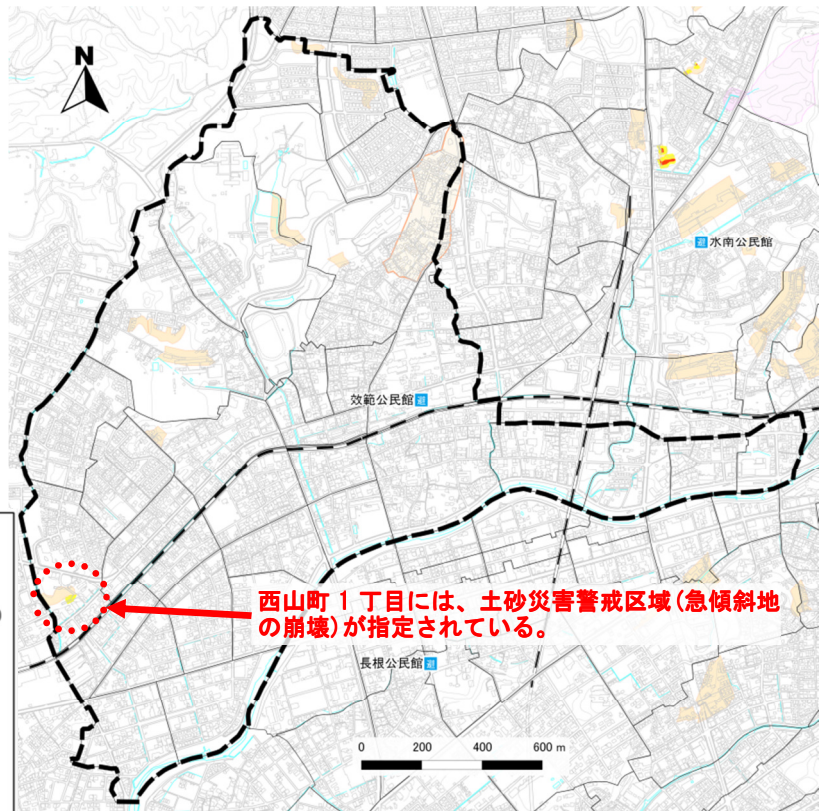
その他、やまて坂2丁目、山手町、東山町1丁目などの山側に急傾斜地崩壊危険箇所がある。

土砂災害警戒区域内にある建物棟数

急傾斜地の崩壊	1棟
特別警戒区域	0棟
警戒区域	1棟

凡例

- 風水害避難所
- 土砂災害情報
- 急傾斜地の崩壊（特別警戒区域）
- 土石流（特別警戒区域）
- 急傾斜地の崩壊（警戒区域）
- 土石流（警戒区域）
- 土石流危険渓流
- 土石流危険渓流による危険区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 地すべり危険箇所
- 既往水害（東海豪雨）



水害・土砂災害危険度図

【風水害時の避難所および緊急避難場所】

効範連区では効範公民館が風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。

近隣連区の避難所を含めても、連区西部の広い範囲で避難所までの距離が700m以上離れている地域が存在する。風水害時の避難所への近接性が良くないことを周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

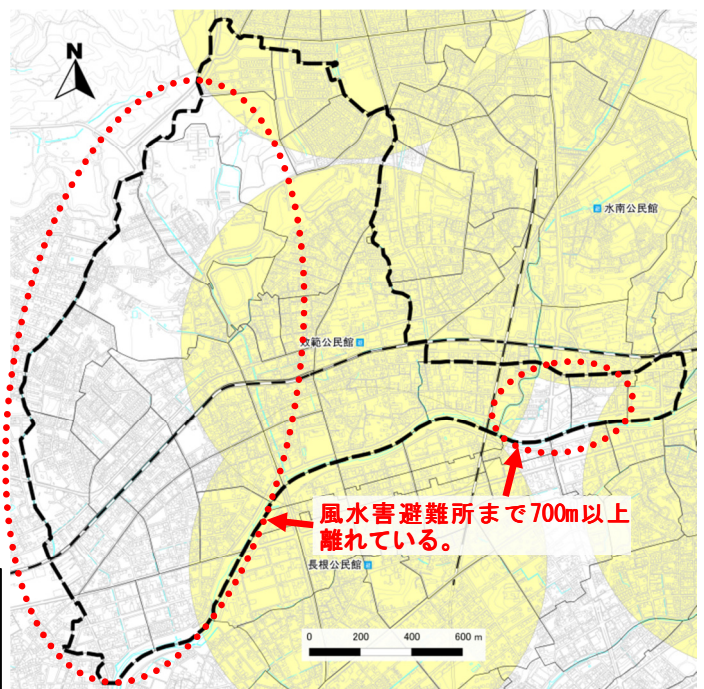
風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
効範公民館	80人	160人	265人
長根公民館【長根連区】	60人	115人	190人
水南公民館【水南連区】	40人	75人	125人
陶原公民館【陶原連区】	60人	115人	185人

※地域防災計画より

凡例

- 避難所・緊急避難場所（風水害）
- 緊急避難場所兼避難所
- 避難所等からの対象範囲（同心円）
- 避難所から700mの範囲



風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

【8-C】 効範連区 地震災害

- 連区中央部にて、狭隘道路が集中している地域がある。
- 東山小学校周辺にて、液状化の危険性が高い。
- 連区南西部と東部に地震時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。

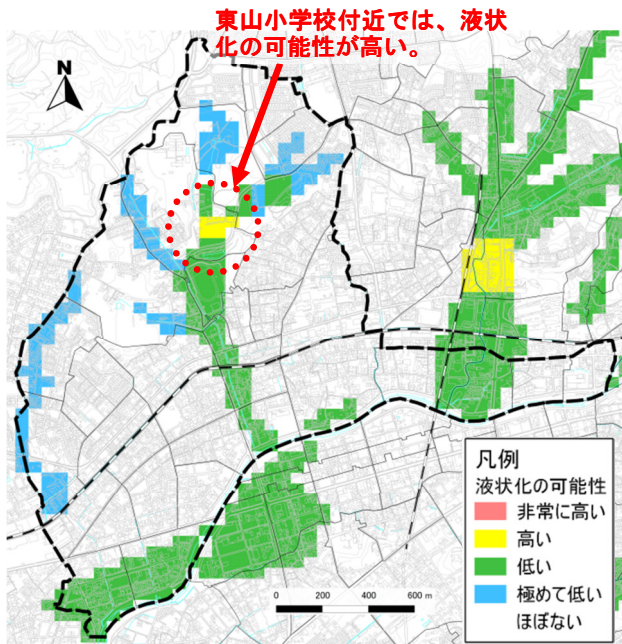
【建物被害および液状化】

(1) 建物被害について

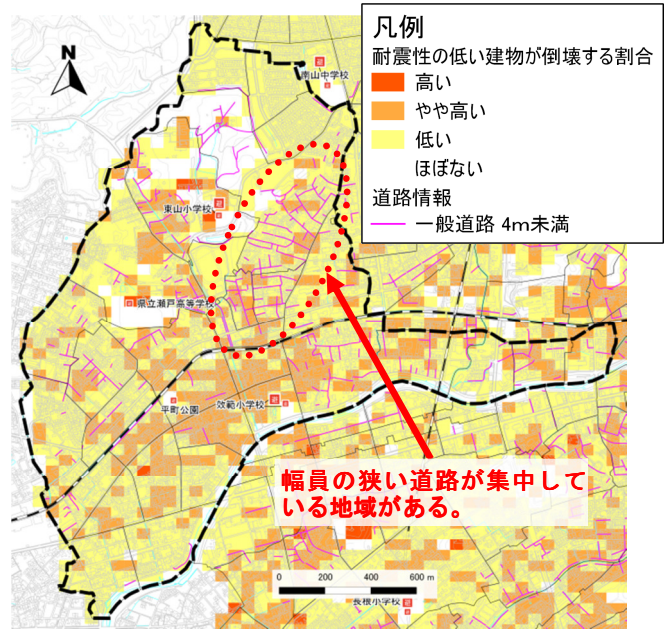
効範連区はほぼ全域にて、耐震性の低い建物が倒壊する危険性がある。山手町、松原町 2~3 丁目などでは、幅員の狭い道路が集中しており、地震発生時において倒壊した家屋等による道路閉塞が生じる恐れがある。

(2) 液状化について

液状化の可能性がある地域は、主に瀬戸川とその支流の勘右エ門川・旭境川によって形成された沖積低地（谷底平野）に分布し、ため池の埋め立て地である東山小学校付近（東山町）では可能性が高い。



液状化危険度図



建物(木造および非木造)倒壊危険度図

【地震時の避難所および緊急避難場所】

効範連区では、地震時の緊急避難場所として平町公園、効範小学校、東山小学校、県立瀬戸高等学校の4ヶ所、避難所として効範小学校、東山小学校の2ヶ所が指定されている。連区南西部（川西町 1~2 丁目）と東部（汗干町、今池町）では、近隣地区の避難所を含めても、避難所までの距離が 700m 以上離れている。

東山小学校付近は液状化の可能性が高い。さらに東山小学校周辺および山手町は道路幅員が狭く、傾斜が急であるところも多いため、円滑な避難が阻害される可能性がある。

地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
平町公園(公園内)	効範小学校	95人	195人	315人
効範小学校(運動場)	東山小学校	95人	190人	305人
東山小学校(運動場)	南山中学校	280人	565人	915人
県立瀬戸高等学校(運動場)	【西陵連区】 水南小学校	95人	190人	305人
南山中学校(運動場) 【西陵連区】	【水南連区】			
水南小学校(運動場) 【水南連区】				

※地域防災計画より



地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図